

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護(萌)		
所在地	守口市大日町4-27-10		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2793200078-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様のその人らしさ(個性)を大切にしています。またできるだけホーム内で役割(得意なことが継続してできるように)を持って生活が送れるようお手伝いしています。共同生活でご入居者様同士が『居心地の良さ』を感じていただけるように配慮し、ご入居者様・スタッフが同じ目標を持ったパートナーになれるように心がけています。
毎月 行事を開催しています。地域の方をお招きした行事も開催し、認知症ケアの取り組みや認知症に関する相談窓口を設置したり、地域の方々との関わりを持てるように力を入れています。地域のコミュニティセンターで開催されている『ふれあいサロン』に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念に則り、どのような場面においても利用者の「心地よさ」を追求すると共に、自立支援本来の意義を考えながらケアにあたっています。職員は利用者の行動には必ず理由があるとの観点から危険を伴わない限り行動を制止することなく、寄り添った支援を心がけています。運営推進会議を利用して家族会を同時開催したり、地域貢献を兼ねて認知症サポーター養成講座を行いホームをアピールする機会にしています。また市担当者は常に丁寧に対応してくれており、ホームでは市作成の体操の普及に協力したり、認知症啓発イベントに利用者と一緒に参加するなど、良好な相互関係を築いています。職員は会議等で話し合い、利用者の状況に合わせてシフトを変えて勤務にあたったり、食事介助の方法を変更する等、利用者の今を大切にした支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を作り共有している。各ユニットごとに、月に1回は理念を唱和し振り返る時間を設けている	設立時、法人の基本理念をもとに職員間で話し合いホーム独自の理念をユニット毎に作り上げています。会議や研修の中で時々理念について話し合う機会を持ち、ホームの方向性を確認しあっています。職員は理念に則り、利用者の「心地よさ」を追求し自立支援本来の意義を考えながらケアにあたっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、町内会の広報から、地域の情報が入ってくる。地域行事に出来るだけ参加し、散歩にでかけたり近隣のお店に買い物に行ったりし近隣の方と接することができるよう支援している。地域のサロンに参加し、なじみの方と過ごす時間も作れている	地域の敬老会やふれあいサロンに参加しています。小学校の運動会に招待されたり近隣こども園の園児が訪れ歌やゲームを行い交流を図っています。週2回のドックセラピーは恒例となっており、歌やプロレスラーのショー等、ボランティアの来訪もあります。ホームでサポーター養成講座を開催したり、認知症カフェを企画する等、地域貢献に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の「見守り隊」に参加し活動している。認知症の方であることを地域の方に理解していただけるよう継続して活動できるよう支援している。介護の日に認知症ケアに関する事を発信できるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、お客様・ご家族様・会長様・地域包括の職員様から意見を頂きホームの運営に活かしている	利用者や家族、地域、行政が参加する運営推進会議ではホームから活動報告がなされるほか、参加者から地域の情報や助言をもらい運営に反映しています。行政担当者から近隣他ホームとの相互交流を持つてはどうかとの助言をもらったり、時には家族会やサポーター養成講座を運営推進会議の際に開催するなど、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には、電話連絡を行ったり市の担当者からはメールで連絡がもらえる。2ヶ月に1回は事業所連絡会を通して市の担当者に相談・報告し協力関係を築いている	市担当者は些細なことにも丁寧に対応してくれており、管理者はわからないことがあれば電話や直接出向いて相談しています。またグループホーム連絡会には市担当者も出席し意見交換しています。市作成の体操の普及に協力したり、認知症啓発イベントに利用者と一緒に参加するなど、相互関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、人員配置が手薄の時はトラブル防止の為一時的に短時間施錠する時がある。ホーム内にて身体拘束廃止委員会を設置し、研修を行っている	毎年法人の研修を職員が受講し、ホームで事例をもとに伝達研修を行っています。管理者は職員に対して、利用者の行動には理由があるので、言葉の制止ではなく、どうしたのかを訪ねるよう指導しています。玄関は施錠せずフロア入口はテンキーで施錠していますが、落ち着かない様子が見られた際には、職員が利用者寄り添いレクリエーション等に誘うことで気分転換を図るなど拘束感を感じないよう支援しています。	

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、定期的にホーム内研修を設け「高齢者虐待・虐待防止」について研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が設けているが、全スタッフはまだ周知できずにいる。出来る限り研修をしつつ行き周知していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書と契約書をすべて読み上げ、十分に説明し理解を得ている。また、何らかの変更があった場合には必ず説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会等での家族様の意見を聞く機会を設けている。その他、面会時にも都度状況報告し、意見を聞いている	日々生活する中で利用者の好みやしたい事等を聞いています。また家族会や来訪時には必ず声をかけ話を聞くよう努めています。食事に関する提案を受けたり、インフルエンザ予防に紅茶が良いとのアドバイスをもらい実践しています。得られた意見等の内容は申し送りノートに記載し、職員会議で検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やホーム内研修などの機会にスタッフからの意見の収集を行い必要時には、個人面談を行い聞く機会を設けている。	職員の提案や意見等は全体会議やユニット会議の際に聞いています。食事介助時の手順やシフト変更についての提案等、利用者の状況に合わせて意見を出し合い検討しています。職員は管理者以外にもリーダーに相談したり、定期的にある法人の面接の際にも意見を言う機会を確保しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・キャリアアップ制度・資格手当・勤続年数手当等がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で研修を行い、月1回スタッフが主体となり研修を行い研修を行う側も受ける側もスキルアップを図っている。また、社内・社外の研修を受ける機会も設けている。		

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回グループホーム連絡会にて他のグループホームとの交流・情報交換共有を図っている。又他事業所との勉強会を共同開催して、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時には、話しやすい雰囲気作りを行い安心感を与えられるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を聴きながらも、本人の想いを優先できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り、幅広いサービスをお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面ごとに入居者様との関係性に応じて同じ目標を持ったパートナーを演じ、家事と一緒にしたり散歩に行ったり、趣味を楽しんだり、日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来訪時だけでなく、手紙・電話等を通じて信頼関係築き絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様が大切にしてきもの等を把握し関係が途切れないように支援するよう努めている。地域のサロンでなじみの方と過ごす時間が作れている。	親戚や友人、近隣住民等多くの来訪があり、居室や和室など好きな場所で寛いでもらっています。家族と葬儀や墓参り、外食等に出かける際は身支度の準備を手伝っています。また職員は利用者と個別に思い出の場所に出かけたり買い物や外食を楽しむ支援をしています。毎年全員が家族宛に年賀状を出しており、職員は代筆や投函等、利用者の出来ない部分を支援しています。	

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居様同士の関係性を把握し、食事の席等を配慮したり、トラブルのないようアクティビティに参加していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り必要に応じ努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご入居者様の思いや希望に添ったケアが出来るよに努めている。困難な場合もなるべく本人本位に検討している。	入居前に職員は自宅や病院、施設に出向き、生活歴や現状等、家族に書面に記入してもらっています。入居後は共に生活する中で利用者のこだわりや習慣を見出し、気づきを申し送りノートに記載しています。それらをもとに利用者がいつも心地よくいられるよう職員間で検討し思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居様との日常会話やご家族様から情報提供いただき、その方のこれまでの生活環境などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションやケアの実践を通じて、それぞれのお客様のできる事・できない事を見極めできる事を継続できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りとアセスメントやモニタリングで小さなニーズにも気づき、サービス担当者会議にて意見アイデアを反映したケアプランを作成しチームケアを心がけている。	利用者や家族の希望をもとにサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。介護計画は利用者の状態に応じて見直す時期を決め、変化があればその都度見直しています。日々の介護記録から担当者がモニタリング、評価を行い再アセスメントしたうえでサービス担当者会議を開催し新しい介護計画を作成しています。時には利用者や家族に会議に参加してもらったり、医師から往診時に意見をもらい計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り・個人記録の情報共有により、チームケアを実践でき、それぞれのお客様のそのときの状態に適したケアが出来るように努めている。		

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとり状況に応じて様々なニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会等のイベントに参加したり、地域の店を利用したり外出の機会を増やしてご入居者様の活性化に繋がられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診日ではない日でもご本人及びご家族の希望があれば、かかりつけ医と連絡をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に相談してかかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医に往診してもらっている利用者もいます。ホームの協力医は月に2回の往診があり、日々の健康管理は毎週来訪する訪問看護師が行っています。緊急時には看護師か医師が対応してもらえる体制を整えています。また歯科や眼科、心療内科等必要に応じて往診があり、希望で訪問マッサージを受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時だけでなく、普段から気になることがあれば相談をできる関係作りをし、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、情報交換や相談できるよう出来る限り努め、できるだけ早期にグループホームでの生活に戻れるよう支援し、受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望に添い、スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師間で話し合い、出来る限りの支援に取り組んでいる。	入居時に看取りに関する指針を説明し、同意を得ています。看取りの支援経験もあり、重度化した場合には医師から家族に説明してもらい職員も交えて方針を決定し、何度も話し合いを繰り返しながら今できる支援を行っています。職員間でも看護師からアドバイスを受けながら話し合い方針を共有し支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にて定期的に研修を行い、マニュアル等もすぐ確認できる場所に置き、全職員が対応できるよう努めている。		

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームにて定期的に訓練を行い、マニュアル等もすぐ確認できる場所に置き全職員が対応でき、地域と普段から交流を深めることで協力体制を築けるよう心がけている。	年に一度は消防署の指導の元避難訓練を開催しています。訓練は夜間を想定し通報から水消火器を使った初期消火、利用者も参加し実際に避難しています。また自主訓練では夜間を想定し、マニュアルに沿って避難訓練を行っています。訓練の際は運営推進会議で呼びかけ参加を求めたり結果を報告する他、近隣にも口頭で挨拶をしています。備蓄は3日間の準備をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居様一人一人に合わせて声掛けし訴えがあった時は話を傾聴し、安心の声掛けができるようスタッフ全員が心がけながら対応している。	新人研修の際は接遇やプライバシーの研修を行い、利用者の尊厳を大切にしたい支援を心がけています。法人でも毎年職員が研修を受けホームで伝達研修を行っています。不用意な言動を見聞きした場合はその場で注意し、会議でも検討しています。職員は利用者とする際には同じ目線で話しかけるよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が『心地よく』日常生活を送れるようにスタッフが日々の会話の中で本人の希望を見つけ出しお一人おひとりに合わせた支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビング等で過ごしたりご本人のペースに合わせてアクティビティの参加を希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のコーディネートはご本人の希望にそり一緒に考えたりその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全てのご入居者様の好みなどをスタッフ全員が把握しスタッフと一緒に料理したりし配膳したり食器の片付けなどしています。	職員は利用者の希望を聞きながら1週間分の献立を立て、ネットスーパーで食材を注文し調理しています。利用者は職員と一緒に米とぎや盛り付け、食器洗い等を行っています。時には寿司やウナギを買いに出かけたり、誕生日には個別で好きなものを食べに出かけています。おやつはタコ焼きやホットケーキ作りは利用者の楽しみの時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立作りから、水分摂取の声掛けなどを、その日のご入居者様の状況に合わせて支援している。		

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし口腔ケア(歯磨き)をしていただき、介助が必要な方には綿棒や歯ブラシにて介助し口の中の清潔保持が出来るよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間おきに声掛けしトイレにて排泄出来るように努めている。ご入居者様の表情を汲み取り、排泄の失敗がない様に対応を心がけている。	職員は個々のパターンを把握して誘導し、日中は全員がトイレで排泄しています。夜間は睡眠を重視し、個々の利用者の様子を見てトイレ誘導しています。入居時おむつを使用していた利用者がトイレ誘導により感覚が戻り失敗が少なくなり紙パンツに移行するなど、職員はカンファレンスで検討しながら利用者が心地く自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化吸収の良い献立を考え、ラジオ体操や散歩での筋肉や内臓を柔軟に保ち便秘を防ぐ様に働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添って安心して入浴を楽しんで頂けるように支援している。	毎日入浴準備を行い、利用者は週に3~4回入浴出来ています。お湯は個々に入れ替え午後からの入浴が基本ですが、希望があれば毎日や午前中の入浴も可能です。風呂場の入り口には温泉マークの暖簾をかけ、入浴剤やゆず湯などの季節のお湯、専用の石鹸等で入浴が楽しみになる様工夫しています。拒否が見られる利用者には時間を変えたり、主治医の名前を出すなどして入浴の支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	穏やかに過ごせる部屋作りをしている。状況に応じて昼寝の時間を設けている。寝具類は定期的に洗濯をし日光に当て清潔を保てるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の内服薬を理解するように努めている。薬ファイル、説明書を用い、スタッフが相互に確認しあえる体制をとっている。日々申し送りご入居者様の変化を報告し合い、提携医・訪問看護師・薬剤師と常に連絡を取れる環境作りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ひとりの状態に合わせて、食器拭き・お米研ぎ、車椅子のお客様にはテーブル上でのお盆拭き・洗濯たたみをして頂くことで張り合いのある生活ができるよう支援している。		

ニチイケアセンター守口大日(萌)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に車椅子や徒歩での散歩に行っている。地域の行事に参加したり、ご家族様と外出・外泊される事もある。	気候の良い時期は毎日散歩に出かけています。毎週買い物係の利用者がコンビニに牛乳を買いに出かけています。行事として初詣や花見、買い物や食べたいものを食べに行くツアー等を企画し出掛けたり、個別で衣類や嗜好品の買い物に行っています。時には職員と一緒に自宅に衣類を取りに帰ることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある時は一緒に買い物などをしたり、代行して買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話したり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間になるよう温度・湿度などに注意し音や光など不快を招かないようにしている。	中庭の菜園に花や野菜を植え、水やりや収穫等から季節を味わうことが出来ています。利用者は和室や廊下の隅やテレビの前のソファで横になったり、各所に置かれた椅子や自由に出ることが出来るウッドデッキ等、好きな場所で寛ぐことが出来ています。強い日差しはカーテンで調節し、窓の開閉や加湿器の使用で快適な温湿度を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを2台置き好きな場所で過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具配置に近づけ馴染の小物を持ち込んで頂き快適に過ごせるように工夫している。	管理者はなるべく使い慣れたものを持参するよう家族に伝え、利用者は机や椅子、タンス、仏壇、人形、家族の写真等を持参しています。自宅に近い配置を心がけ、絨毯を敷いて布団で休んでいる利用者もいます。相撲の好きな利用者が力士の手形を飾ったり、毎日掃除と空気の入替えを行い、濡れタオルで乾燥を防ぐなど、心地よく過ごせる居室作りがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活を送れるよう居室の表札を大きく表示するなど工夫している。		